

2013年YFNゲストスピーカー

## 「聖霊のパプテスマ」 主ご自身を味わう

新宿シャローム教会  
ユースパスター

富田慎悟師



### ■イエス様と、思いっきり繋がり、思いっきり離れる！

■私たちは、見たことも食べたこともない食べ物を知ってるとは言えません！それと同じように、イエス様を頭では知っていても実感は出来たとは言えません。これからもっとイエス様を味わい、繋がり、イエス様の命の中に生きていく、そのことをこれから一緒に発見していきたいと思います。私は15歳の時に初めて、イエス・キリストを自分の救い主として告白し、洗礼を受けました。我が家はクリスチャンホームではありませんでした。自分が中学生の頃に、私の母親がいきなり教会に行き始めたんです。母は今まで全く教会行ったことないのに、突然、ある日曜日の朝、起きたら母親が「早く用意なさい！教会に行くから。」と教会に連れていかれました。私はとてもショックでした。私はその日、教会に行き礼拝に参加しました。そしてその日の内に「あなたイエス様を信じますか？」と言われて、「はい！信じます」と言いました。そしてそれから2ヶ月後には洗礼を受けました。ものすごく早くイエス様を信じ、ものすごく早く洗礼を受けました。しかし、主から離れるのも、ものすごく勢いで離れてしまいました。それは18才から20才にかけての頃です。その時は私は、人生に何の希望も目的もなく、心の中にいつも失望感がありました。生きる意味など何

もなかったんです！でもそこで私はひとつの決心をしました。それはどうせしようもない人生だったら、思いっきりしょうもない人生を生きてやろうと！どうせ意味のない人生だったら、思いっきり意味のないことをやろう！と決心しました。そして、その月に最後にもらった給料を手ひとつのビジネスをスタートしました。そのビジネスとはギャンブルでした。全然ビジネスとは言えませんが、数週間は本当に面白くて、数万円から始めたそのビジネスが、2ヶ月経ち80万円に増えました。でもやがて心の中に虚しさが広がり、それがどんどん増し加わっていきました。いつも虚しく虚しくて、その虚しさが心から消えませんでした。ある夜、もう我慢できなくなり、押し入れの中にあつた段ボールの中から聖書を引っ張り出し読みました。どこを読んだか覚えていませんが、その中の1つの言葉が私の心に突き刺さりました。それは「自分の手で働きなさい。」という言葉です。その1節を読んだ瞬間、その言葉は、私の心の中を突き刺しました。そしてその後、その言葉がまるでエコーのように耳に響き続けました。やがてそれを境にギャンブル生活はうまくいけなくなりました。そして仕事を捜しました。捜している時、1つの求人募集が目に入りました。それは日本料理屋さんの求人募集でした。私はどこでも働こうと決めていたので、すぐ電話しました。そして翌日に面接があり、その次の日から働くことが決まりました。私はとても喜

びました。働くのはいいことですね！でもこの日本料理屋で働いた1年間が私にとって本当に大きなチャレンジの時となったんです！

### ■とんでもない職場でのチャレンジ！

■私は、その職場に行って最初の日に、これはとんでもない所に来てしまったと思いました。なぜならその職場のオーナーは元暴走族のリーダーで、見た目もいかつく、職場の社員に対して信じられないくらい怒鳴るんです。私は後悔しました。でも、私はこの職場で頑張ろうと決めました。そんなある朝、職場に行くと、オーナーが鬼みみたいな顔で電話してるんです。「どうしたんですか？」と聞くと「あいつが来ないんだ！電話も繋がらないんだ！」と言ってるんです。結局そのまま社員は行方不明となりました。そしてその後、オーナーが私のところに来てこう言いました。「おまえは逃がさないぞ！」いや～！困ったことに、そのオーナーは我が家のすぐそばに住んでいました。もう捕まった！と思いました。

■それから1か月も経たないうちに私は、その職場のリーダーになっていました。それから私にとっての本当のトレーニングでした。私は毎日怒られました。そして毎日のように泣いて帰りました。翼があつたら飛んで逃げたいと思いました。夜、眠りにつくとオーナーが鬼みみたいな顔で夢に出てきて「コラ！」って怒るんです。そのたび飛び起きました。もうその頃は体重が49kgしかなく、本当に骨と皮だけになってしまいました。

■ある夜、いつものように怒鳴られ家路につきました。その日は寒い夜でした。自分の部屋に入りひざまずいてすぐ祈りました。その時、今までどうしても出て来なかったひと言が口から出てきました。それは「神様、ごめんなさい！」というひと言です。それから私は続けて「本当に私にはあなたが必要です！イエス様！私はあなたのもとに帰ります！イエス様！私はあなたを求めます！主よ、赦して下さい！」と祈り出しました。そのことがあつた時から私は、神様との関係が繋がっていきました。悔い改めは神様と繋がる第1歩です。それ以来、私は神様に向かって歩むことが、自分の人生の楽しみになりました。でも仕事ではストレスだらけです。いつも職場に対する恐れがありました。だから少しでも時間があればトイレに駆け込み、そこでひざまずいて祈りました。「主よ助けてください！今日の働きもあなたの助けがなかったら私はできません！」トイレが私の憩の場、主を礼拝する場所でした。もう汚くても全然構いません！私はひざまずいて、そこでよく祈っていました。

### ■イエス様のために生きていく決心！

■やがて私は、日曜日に教会に行くことが、私にとっての一番の楽しみとなりました。そこで神の家族とともに時間を過ごす。神を賛美する事。その時間が自分の人生にとっての何よりも貴重な時間となりました。そんな時、ある集会に参加しました。ちょうどゴールドンウィークの時期でした。その中でゲストスピーカーの先生がメッセージの後、招きをしました。「今日この中で牧師に宣教師にまた伝道師に、また将来、神様のために人生を捧げたいと思っている人は手を挙げなさい！」私はその祈りの言葉が自分の耳に入った瞬間、何か衝撃みたいのを感じました。自分の人生の中で初めて手をあげてみたいと思ったんです。でもあげられませんでした。あげる勇気がなかったです。なぜなら周りに自分の兄弟

や友達がいからです。手を上げたら絶対笑われる、みんなに後できつとばかにされると思ったのです。するとそのメッセージがもう一度しつこく聞きました。「今日この中に確かに、将来牧師に伝道師に、また、宣教師に神様の働きに自分の人生を捧げたいと言う人がいるはずですよ！手を挙げなさい！」私はその瞬間、手をあげていました。そして祈ってもらいました。この祈りの後、私の心の中に喜びがわきあがったんです。それは自分の人生に生きる道を発見した瞬間でした。自分も生きている意味があるんだ！心の中から喜びがあふれ、それをどうしたら良いかわからないくらい喜びでした。

■それから私は沢山のノンクリスチャンの友達に電話し、イエス様のために生きていく決心を伝えました。でもみんな口をそろえて、「無理だよ！」「そんな似合わないからやめた方がいい！」そういいました。でも母親なら信じ喜んでくれるだろう？と思って連絡しました。すると母親も、「あなた、ちょっと考え直さない！」という返事でした。それは無理もない事です。何故なら以前の自分を母は良く知っていたからです。友達もだめ、母もダメ、自分の心は落ち込みました。自分は捧げたいと思う、自分はイエス様のために何かしたいと思う、でもこんな自分を捧げたところでいったい何になるんだろう？何ができるんだろう？自分を捧げたいと思っても、神様はこんな小さな者を必要としないんじゃないか？そんな思いが心の中に広がって行きました。でもある時、職場から帰って聖書を読むと、1つの言葉が、私を献身へ導く確かな確信となりました。

■それは1人の盲人の話です。盲人は道でホームレスの生活をしていました。エリコという町に向かう道端に座っていました。そして彼の生活は、道端から「お金をください！」「食べ物ください！」「わたしをあそこまで運んでください！」「私を助けてください！」この盲人は人々から助けをもらう事だけが人生のすべてでした。しかし、彼がそこに座っていると、今まで聞いたことがない人々の足音、話し声が聞こえてきました。彼は人に聞きました。「どうなっているんだ？」何故？こんな大勢の人が来るんだい？」と。するとある人が答えました。「今からイエス様がここを通るのだ！」その瞬間、彼は立ちあがったんです！今まで彼は物乞いをしていました。しかし、その彼が立ち上がって叫び声をあげたんです！「ダビデの子イエス様！私がここにいます！」「私を憐れんで下さい！」「ダビデの子イエス様！私を憐れんで下さい！」彼が大声で叫び出した瞬間、周りは怒り出しました。「うるさい！お前がイエス様を求めても何も変わらないのだ！」「うるさいからいつものようにそこに座ってけ！」人々は彼を無理やり座らせようとしてました。しかし彼は叫び続け、その声がイエス様の耳に届きました。イエス様は彼のところに来て、彼に尋ねます。「私に何をしてほしいのか？」彼はすぐに答えます。「目が見えるようになることです！」するとイエス様は、「あなたの信仰が直したのです。あなたの信仰の通りになれ！」と言った瞬間、彼の目は見えるようになました。彼は喜び賛美しながらイエス様の後について行きました。

■この時、周りの人達どのような反応をしたのでしょうか？ルカ18章43節には「彼はたちどころに目が見えるようになり、神をあがめながらイエスについて行った。これを見て民はみな神を賛美した。」とあります。今まで人々が叱りつけ、叫ぶのを止めさせていた盲目の男が癒されてイエス様についていくその姿を見、そこにいた民はみな神様を賛美するようになりました。



■その御言葉を読んだ瞬間、私は「これだ！」と思いました。私を誰も期待せず、自分自身もある意味で信じられない、そんな小さな存在の私でも、この盲人のように立ち上がってイエス様を求め、変えられて行く時、必ず、人々の内に賛美がわき上がる！人々は、本当に神の素晴らしさをほめたたえるだろう、そう思いました。だから皆さん！自分のことを小さく思ったとしても決して失望しないでください！だれがあなたに出来ないと言ったとしても、私たちは諦めてしまう必要はありません！自分は取るに足らないちっぽけ過ぎる、中学生だから、高校生だから、経験がないから、そのように思って、自分を小さく見る必要はないんです！イエス様は私たちがどのような存在であったとしても、立ち上がって主の名を呼ぶ者たちを通して、大いなる栄光を現すことがおできになるお方だからです！あなたを通して、神の名が褒めたたえられるんです！あなたを通して、周りの人々に神に向かう賛美がわき上がることとなるんです！ある意味、私たちは立派すぎない方がいいかもしれません。私たちが立派すぎると、人はあの人立派だから出来たんだって思うかもしれません。でも小さな私たちが立ち上がって行くとき、その栄光は神に、イエス様の御名だけが褒めたたえられることになるんです！

## ■ 献身を表明したけれど！？

■私は献身を決意しました。神様に全部を捧げ、職場を辞め、神学校に行く事を決意をしたんです。そのことをオーナーに話し辞める日が来ました。しかし、困ったことに、私の代わりの人が決まりません。来ない訳ではなく、すぐにいなくなるのです。もう辞める日がきて、私はオーナーの部屋を歩き、ひざまずき言いました。「オーナー、私は神様を信じています。そして聖書の中には、このように書かれています。主を愛するように、あなたの主人を愛しなさい。だから今、私の主人は、オーナーあなたです！こんな私で良かったら、後釜が見つかる時まで、私を使ってください！」そう言いました。そうすると、あの鬼のように恐ろしいオーナーが、突然上を向き、その目から涙がスーとこぼれ落ちました。そして「ありがとう！」と言って私を抱きしめたのです。更にオーナーはこういきました。「お前の言っている意味よくわからないけど、お前の中にあるものは何か好きだ。」しかしその後、半年ぐらいたっても後釜が見つかりませんでした。私は長く待たされる事で少しづつ失望していきました。祈っても賛美しても満たされない思いが続きました。教会に行くと、人々が手を挙げて賛美し、涙を流しながら祈っている人たちがいます。でも自分にはそういう感覚が全くありませんでした。私は少しづつ疑いはじめました。「私は決心したけど、あれはやっぱり自分だけの決心だったんじゃないか？」「主は私を、召しておられないんじゃないか？」そんな思いになっていきました。

## ■ 異言が溢れて止まらない！

■しかし、その年の夏の終りに、悩みと不安いっぱいの中、一人で部屋で祈っていたとき、突然、何か大きな手みたいなものが私を捉えるのを感じたんです。そして、おなかの奥底から何かわき上がってきて、私はひとり部屋でひれ伏し、大声をあげて泣き続けました。自分でも何が起きているか分からないまま涙が溢れて、大声で1時間以上も泣き続けました。そんな事が毎晩続いたんで

す。私は自分がついに頭がおかしくなったと思いました。そして、日曜日に教会に行き、牧師先生に相談しました。すると牧師先生は「君！それは聖霊のバプテスマを受けたんだよ！聖霊様があなたの内に臨まれたんだ！」そして、「聖霊様が臨まれた時にあなたは異言を求めましたか？」と訊ねました。私は「求めてません。」と答えました。牧師先生は「じゃ、帰ったら求めてください！」と言われ、私は家に帰って求めてみました。すると信じられないくらいに、いきなり内側から何か湧き上がってきて、口が勝手に動き出し、異言が溢れて、心から主にハレルヤ！と感謝しました。しかし異言が与えられたことはよかったんですが、止め方が分からなかったんです！与えられ方は聞いてました、しかし、止め方は聞いていなかったんです！寝る時間になっても異言は止まらず、寝る事が出来ず、あと仕事に行くまで2時間位しか寝る時間が出来ないのに、寝ようとしても口が勝手に動き出し祈り始めるんです。結局その日は一睡も出来ず職場に行きました。職場でも止められないんです。我慢しようとしても口が勝手に祈り出すんです。だから仕事でも、下を向いて働いていました。しばらくするとオーナーと社員が相談し、いきなり私のところに来て、私を捕まえ、私の腕をめぐり「お前！葉やってるだろう？」と言われました。私は「違います！葉じゃないんです！」と言っても、またすぐ口が動き始めるので、何の言い訳にもならないんです。薬物のせいではではないと理解した社員が、「それはいいことなの？」と聞いてきたので、「これは良いことです。」としか答えられませんでした。結局一週間くらい異言が止まりませんでした。誰でも私みたいな体験をするわけではありません。それぞれ聖霊様の働きがあります。しかし、私はあまりにも神様から遠くに離れ過ぎていたので、神様が強力な体験をさせてくださったんだと思います。

## ■ イエス様だけが扉を開く方！

■もうひとつの御言葉を見たいと思います。黙示録3章7節・8節「また、フィラデルフィヤにある教会の御使いに書き送れ。『聖なる方、真実な方、ダビデのかぎを持っている方、彼が開くとだれも閉じる者がなく、彼が閉じるとだれも開く者がなく、その方がこう言われる。わたしは、あなたの行いを知っている。見よ。わたしは、だれも閉じることのできない門を、あなたの前に開いておいた。なぜなら、あなたには少しばかりの力があって、わたしのことばを守り、わたしの名を否まなかったからである。』」

■主が私たちの人生の前に、「扉」を開く理由は何でしょうか？私たちが力があるからでしょうか？それは違います！むしろ力がないものです。この聖句には「少しばかりの力があって」と書かれています。この言葉の本来の意味は「少しの力しかない」という意味です。この「少し」という言葉は「ミクロス」という言葉です。それは「ミクロ」（目に見えないほど小さなもの）語源になった言葉でもあります。ですから「あなたには目に見えないほどの小さな力しかなかった」でも、「主に忠実だった！わたしの名前を否まなかった！わたしから離れなかった！」それゆえに主は、誰も閉じることのできないその扉を開いておいたのです。主は、そのように私たちに約束してくださっています。みなさん！イエス様が扉を開くなら、誰も閉じることができません！

イエス様こそがすべての鍵を持っておられる方です！イエス様は、「わたしは死とハデスの鍵を持っている」と語られています。ハデスとは何でしょうか？それは地獄です！イエス様は地獄の鍵さえも持っておられる方なんです！

■誰が死に対してこの世の中で解決策を持っているのでしょうか？どんな立派な人も有名人も成功者も宗教家もまた名声を得た人も誰も死に対する解決策を持っていません。しかし、この地上でただ1人、イエス様だけが死に対する答えを持っておられるんです！十字架で既死に対して解決策を与えてくださいました！十字架の死と復活を通して私たちに天国への道を開いて下さったんです！死に打ち勝たれたその方が、私達とともにおられるんです！私たちの中に生きておられるんです！それは結局どういうことでしょうか？つまり私たちは既に1番難しい問題を解決済みだと言うことです。そうであるならば当然、それに加え、2番目、3番目、4番目の問題の解決を持っておられるお方です！

■ですからイエス様が扉を開かれる時、見ておられることは、私達の力のあるなしではありません。もしイエス様が私たちの力のことで心配するのであれば、あの12弟子たちを集めなかったでしょう。12弟子を皆さんは凄いエリートが集めたと思っているなら、それは大きな間違いです。聖書を読んでみてください。12弟子達は本当に、でこぼこだらけの器なんです。でもイエス様は彼らに全部任せて帰ったんです。それは彼らの力量を見ていたからでなく、聖霊が私たちの内に下り、私たちが聖霊に満たされるかどうか、聖霊によって生きるかどうか、それこそが本当に重要なこととして主は見ておられるからです。イエス様の最後の言葉、「聖霊を受ける時あなたがたは力を受ける。そしてエルサレム、ユダヤ、サマリヤの全土および地の果にまで、わたしの証人となる。」イエス様の最後の言葉は聖霊を受けるときにあなたは地の果てにまで私の証人となる。」皆さん！本当に主は私たちに聖霊様を通して力を与えてくださいます。人生の扉を開いてくださいます。

## ■ 聖霊様の力を受けましょう！

■私は聖霊のバプテスマを受けて後、状況が変わって行きました。2週間後に職場の私の後釜、二人が決まり、その人達は忠実に働き、そこから2か月後には、職場を辞めることができました！それから数か月後には私は結婚して、そして、神学校に行く道が開かれました。そしてやがて教会のスタッフとして働くことになり、その後、スタッフの立場から、今では牧師として働くという扉が開かれていきました。これは主が開いてくださった扉です！それらはどこからスタートしていったのかと言うと、主に自分を捧げ、また聖霊の力を受けた時からです。そこから主は扉を開いて下さいました。

■今日、皆さん！私たちはこの聖霊様の力を受け取りましょう！でも皆さんはこのように思うかもしれません。「いやいやいや私は聖霊様に満たされるそんな人間じゃない。」「本当に問題だらけ、罪だらけ、弱さだらけ、こんな私が、神様に必要とされるわけがない。」と思うかもしれませんが、でもガラテア1章15節に「けれども、生まれたときから私を選び分け、恵みをもって召してくださっ

た方」とあるように、主は御言葉で何度も繰り返し、恵みによって私達を召すと言っています。その恵みとはいったいなんでしょうか？それは、受けるべきじゃない者に与えられる特別な祝福です。恵みはふさわしくない人に与えられるありえない神様からの行為の事です。自分は本当にふさわしくないと思うならあなたこそ神様からの恵みを受けるのにふさわしい存在なんです！だからこそ、今日！イエス様の御名にあつて大胆に主の前に進み出て神様の恵みを受け取りましょう！問題があるかもしれませんが！チャレンジがあるかもしれませんが！そして、罪の中を歩んでるかもしれませんが！でもそれを解決してからではなく、解決する為に主の前に行きましょう！そうするなら主ご自身が解決の道を与えてくださるんです！今日がその時です！

## ■ 日本こそリバイバルにふさわしい国！

■主が何度も聖書の中で語っています。日本という国を思う時に、私たちはある意味ふさわしくないと思うんです。日本は本当にリバイバルにふさわしくないってよく聞きますか？日本は本当に教会が小さすぎる！日本のクリスチャンは本当に弱すぎる！本当に、日本は神様の救いとかリバイバルから、ほど遠い国だ！宣教師の墓場だ！とかいろんなことが言われています。でも皆さん！よく考え下さい！恵みはふさわしくないものに与えられるもの、日本がもしリバイバルにふさわしくないのであれば、日本がもし主の救いにふさわしくないのであれば、主の目から見たら、日本こそリバイバルにふさわしい国なんです！！日本こそ神様の恵みを受け、日本こそ全地に主の栄光を輝かせるのにふさわしい国なのです！これから全世界の人々が日本に対してひとつの事を語ります。（私はこのことを信じてあらゆる場所で告白し続けているんです。）それは、あのカナの婚礼の中でイエス様が最初に行った奇跡です！誰も期待していなかった水をぶどう酒に変えられた奇跡です！イエス様は喜びのぶどう酒へと変えられたんです！それを飲んだ世話役が何と言ったでしょうか？「こんなに良いものを最後まで取って置いたなんて！」と世話役がそのように言ったんです！

■皆さん！これから全世界が日本に対してこのような事を言うようになります！こんなに素晴らしいリバイバルが最後の最後の時代にとって置かれたなんて！こんなに大いなる神様の計画が最後の最後の最後まで、まだあったなんて！必ず人々が日本のことを見てその言葉を口にするようになります！それはどこから起っていくのでしょうか？それはここにいる私たちから起って行くんです！神様による変化はいつも内側から外に向かって起っていきます！リバイバルはあなたの内側から、私たちの心の中から、腹の奥底からスタートしていくんです！皆さんこそ、そのリバイバルの種であり、これから誰も見たことのない大きなリバイバルを担っていく器となっていきます！今！本当にそのことがスタートして行くことを覚えて感謝しましょう！さあ！主の前に共に進み出て行きましょう！

●YFNで語られたメッセージは、全て無料で視聴する事が出来ます。学院のホームページからYFNにアクセスしてください。